

## 令和4年度奨学生 留学体験記 (2023年8月～2024年6月フィンランド)

私は留学ということ自体が経験として、いいことだということにはわかっていたが、最初から前向きな気持ちがあったわけではなくそこまで深く考えていなかった。

中高一貫校に通っている私は、中学生のうちから進路について考える機会が多かったが、自分は何に興味があり、何を学び、何になりたいのかよくわからず行き詰まるが多かった。そんな時 AFS の帰国生である兄が留学した時にもらった「どんな 10 代を過ごしたら、なりたい大人になれますか」と書いてある AFS のパンフレットが目に入った。その言葉を見て、勉強が得意でもなく、楽しくも感じられていないままで高校生活を終えていいのか、留学に行ったら自分が何に興味があり、自分がどんな大人になりたいのか見つけられるのではないかと思い留学させてほしいと頼んだ。家族は元々留学に肯定的だったため、快く背中を押してくれた。

私が今いるフィンランドは教育水準世界最高峰と言われ、さらに世界一幸せな国と言われている。高校では皆が学びたいものをそれぞれ選択しているため、皆が違う時間割になっている。日本の大学受験のための勉強と違い、一人一人が学びたいことを学べる環境のため、意欲的に学習している印象がある。さらに国民全員が無料で教育を受けられるため、教育格差も少なく感じる。

そして、私がフィンランドで生活するうえで沢山のひとと話し、関わっていく中で、彼らは何より「幸せ」を優先し、それを願いながら生活している事がわかった。私が学校のことで行き詰ったとき、ホストマザーも学校の先生も「あなたが幸せだと感じる事が大切で、それを尊重すべき」と言ってくれた。学校の友達と進路の話をしているときも進路が決まらず悩んでいることを相談したとき、友達は「自分が何をしているときに幸せだと感じるのか、何を学んでいるときに楽しいと感じるのか、考えるといいよ」と言ってくれた。様々な体験から彼らは「幸せ」であることが重要なのだとわかった。それは世界一幸せな国と言われる要因の一つだと考える。

もちろん留学は辛いこともあるし日本に帰りたと思うことはたくさんあった。言語が理解できずに孤独を感じることもある。それでも、何かおかしいことがあれば皆が笑う。つまり、笑うという共通言語を誰もが持っているということも分かった。日本の凝り固まった考え方の中で生活するのは自分にとって息苦しかったが、今はありのままの自分でいても否定されずに自由に生活できる素晴らしさを感じた。

私は留学に来てから新しい価値観を学び、様々なところで考え方が変わった。自分が何に興味があって何を学びたいのか少しずつわかってきた。留学というのは語学のためにするのではなく、自分の知らない世界を知るため、自分のまだ知らない自分を見つけるためにするものだ。もし、これを読んでいる人が少しでも留学に興味があるなら、自分が何になりたくて何がしたいのかわからず行き詰って、何か行動したいと思うのなら、ぜひ留学について考え、行動してみしてほしい。一歩踏み出すことであなたの人生が大きく変化するかもしれない。

私を変えてくれた留学に関わってくださったすべての方に感謝したい。

